

【第1号議案】

2021年度事業報告

2021年度事業ならびに会務運営は、2020年度第5回理事会において承認（2021年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行を予定していた。この事業計画は、2020年に始まった新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮した上で、前年度よりもリモート開催の割合を多く設定し、会議やセミナー、学術大会等はハイブリッドでの開催で対応を図ったが、感染拡大の収束が見えない中で、一部のイベントの開催中止・延期を余儀なくされた。

第77回総会学術大会は、今後の学術大会運営の方向性を見極めるため、従来の現地開催と現地開催終了後のWeb開催の両方を行った。参加登録者数は2020年に記録した5,273名には及ばなかったが、4千名近くの会員諸氏が2年ぶりに横浜に集い、成功裡に終えることができた。また、第49回秋季学術大会は、本学会にとって初となる完全ハイブリッド開催を熊本で実施し、現地参加者数は1,000名には及ばなかったが、Web参加を含めた参加登録者数は、過去最高の2,439名を記録した。国際化でも、第77回総会学術大会はInternational Sessionを国内外から応募のあった48演題が対面（海外は動画による発表）方式で開催された。国際学術交流においては、中華医学会影像技術学会（CSIT）、大韓放射線科学会（KSRS）、中華民国医事放射学会（TWSRT）のいずれもがWeb開催に変更となったため、役員、会員等の派遣は行わず、代表理事によるビデオ講演または開催祝いのスピーチに切り替えた。外務省や国際協力機構などの後援を得て進めている東南アジア教育支援事業においては、対象国としていたミャンマーにおいて、2021年2月に発生した軍によるクーデターのために、ほとんどの教育支援事業が実施不可能となり、基礎教育セミナーを録画することで、オンライン教育を含めた教育支援を行うための準備にシフトした。

11月には新型コロナウイルス感染拡大防止を配慮し、Web動画配信による市民公開講座を京都で開催して研究成果を一般市民に還元した。また、学会事業評価委員会による2020年度の事業評価結果を委員会、部会、支部の2021年度事業にフィードバックした。

2021年度末の正会員数は16,414名であり、2020年度末の正会員数と比べて減少（273名）し、2020年度に続き減少となった。また、昨年度に引き続き、新型コロナ状況下における教育支援を目的として、年会費を無償として入会を募った学生会員は1,460名となり、2020年度（1,550名）と同様に高い水準を維持した。

2020年度に引き続いてのコロナ禍にもかかわらず、会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会一丸となって事業を執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、2021年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

1) 総会学術大会の開催

第77回総会学術大会は、パシフィコ横浜にて西出裕子大会長のもと2021年4月15日（木）～18日（日）の4日間開催した。引き続き、2021年4月28日（水）～6月3日（木）の約1月間にわたりWeb開催した。

一般研究発表演題は332題、参加登録者数は3,987名であった。

第78回総会学術大会は2022年4月14日（木）～17日（日）の4日間、白石順二大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

2) 秋季学術大会の開催

第49回秋季学術大会は、熊本城ホール（熊本市）にて川田秀道大会長のもと2021年10月15日（金）～17日（日）の3日間開催した。さらに、2021年10月15日（金）～11月7日（日）の約3週間は、Web開催した。一般研究発表演題は331題、参加登録者数は2,439名であった。

第 50 回秋季学術大会を 2022 年 10 月 7 日（金）～9 日（日）の 3 日間、飯田紀世一大会長のもと両国 KFC ホール hall&rooms（東京都墨田区）で開催すべく準備を進めた。

3) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7 つの部会が総会学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。

教育委員会、専門部会、地方支部の共催でセミナーを開催した。

画像部会は、医用画像プログラミングセミナーと DR セミナーを開催した。

核医学部会は、2 回の核医学画像セミナーと 3 回の核医学オンラインジャーナルクラブを開催した。

放射線治療部会は、2 回の放射線治療セミナーを開催した。

撮影部会は、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナーと CT 応用セミナー、MRI 安全管理セミナーを開催した。

計測部会は、簡易線量計製作セミナーとサーベイメータ活用セミナーを開催した。

放射線防護部会は、2 回の医療放射線リスクコミュニケーションセミナーと放射線影響と防護量の考え方を学ぶ Web セミナーを開催した。

医療情報部会は、2 回の PACS Specialist セミナーと PACS ベーシックセミナー、2021 年度医療情報 Webinar を開催した。

4) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の学術大会ならびに支部事業を開催した。

- ① 北海道支部： 北海道支部第 77 回春季大会，北海道支部第 77 回秋季大会
- ② 東北支部： 東北支部第 59 回学術大会，学術講演会やセミナーなど 3 回
- ③ 関東支部： 第 68 回関東支部研究発表大会，学術講演会や研究会を 20 回
- ④ 東京支部： 第 75 回東京支部春期学術大会，技術フォーラムやセミナーなど 17 回
- ⑤ 中部支部： 第 55 回中部支部学術大会，学術や技術セミナーなど 19 回
- ⑥ 近畿支部： 第 65 回近畿支部学術大会，勉強会やセミナーなど 10 回
教育用動画コンテンツを 6 本作成・公開
- ⑦ 中国・四国支部： 第 62 回中国・四国支部学術大会，夏季学術大会やセミナーなど 9 回
- ⑧ 九州支部： 第 70 回九州支部学術大会，コミュニティやセミナーなど 10 回

5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした 2021 年度市民公開講座は第 49 回秋季学術大会併設（熊本城ホール：熊本市）で「医療における放射線の利用 ―その歴史と技術の進歩―」開催し 69 名が参加した。

2021 年度市民公開シンポジウム「痛（いと）うないですか？ “腰” ―放射線技術を駆使した原因究明と手術支援―」は、メルパルク京都（京都市）からライブ配信に加え、オンデマンド配信にて開催した。ライブ配信では 74 回線，オンデマンド配信では 140 回の視聴があった。

また、2021 年度 JSRT-JART 合同市民公開講座「東北からはじまる世界最先端のがん治療 ―きいて、みて、なっとく―」を 東北大学医学部 星稜会館（仙台市）にて開催し参加者 69 名であった。

6) フォーラムの開催

広報、啓発を目的として第 77 回総会学術大会時に、医療安全委員会は医療安全フォーラムを開催し、また標準規格委員会は標準化フォーラムを、関係法令委員会と放射線防護委員会は関係法令委員会・放射線防護委員会合同フォーラムを開催した。また、第 49 回秋季学術大会時には、医療安全委員会は医療安全フォーラムを、標準規格委員会は標準化フォーラムを開催した。

2. 刊行広報事業；公 2

1) 学会誌の発行

学会誌第 76 巻 1 号～第 76 巻 12 号の 12 冊（論文特集号 1 冊含む）を毎月 20 日に発行した。
2020 年 1 月～12 月で掲載論文数が 63 編（昨年 64 編）となった。

2) 英語論文誌の発行

公益社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第 14 巻第 1 号（3 月）、第 2 号（6 月）、第 3 号（9 月）、第 4 号（12 月）を発刊した。掲載論文数の合計は 48 編（昨年 52 編）となった。

3) 出版活動

放射線技術学シリーズは「放射線システム情報学（改訂 2 版）」を 12 月、「核医学検査技術学（改訂 4 版）」を 2022 年 2 月に発行した。

東南アジア教育支援班と協力し東南アジアの教育を支援するための教科書として「放射線安全管理学」、「核医学検査技術学」、「MR 撮影技術学」、「CT 撮影技術学」、「放射線計測学」のシリーズ 5 冊から一部抜粋して「Safety and Management in Medical Imaging」を作成し 2022 年 2 月に発刊した。

4) 部会雑誌の発行

各部会において部会雑誌を発行した。

- ① 画像部会： Vol. 44 No. 1, Vol. 45 No. 2
- ② 核医学部会： Vol. 42 No. 1, No. 2
- ③ 放射線治療部会： Vol. 35 No. 1, Vol. 35 No. 2
- ④ 撮影部会： Vol. 29 No. 1, Vol. 29 No. 2
- ⑤ 計測部会： Vol. 29 No. 1, Vol. 29 No. 2
- ⑥ 放射線防護部会： 第 52 号, 第 53 号
- ⑦ 医療情報部会： Vol. 20 No. 1, Vol. 20 No. 2

5) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を発行した。

- ① 北海道支部： Vol. 90, Vol. 91
- ② 東北支部： 第 31 号
- ③ 関東支部： 24 号
- ④ 東京支部： Vol. 136
- ⑤ 中部支部： Vol. 23
- ⑥ 近畿支部： Vol. 27 No. 1, No. 2, No. 3
- ⑦ 九州支部： Vol. 20

6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ（和文）等に掲載し、広報活動を展開した。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線の基礎知識に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業；公 3

新型コロナウイルス感染症の影響により 1 年間の活動延長が認められた 2019-2020 年度学術研究班を含む学術研究班 20 班を編成して学術活動を行った。各編成班は、コロナ禍の影響を受け、当初の活動計画の縮小を余儀なくされ、学術研究班のうち 2019-2020 年度班から 1 班、2020-2021 年度班から 1 班

の1年間活動期間延長を決定した。2020-2021年度班のうち1班は班長のご逝去に伴い、理事会に諮って活動を中止した。

また、本会の更なる多様性を鑑み、ダイバシティ推進調査班を編成し女性や若手研究者の学術研究に対する意識調査を実施した。その他、学術研究で多用されつつあるAI技術を放射線技術学発展に供する目的でAI技術活用班も編成した。

第77回総会学術大会では、専門部会講座の「入門編」8講座、「専門編」7講座ならびに、教育講座2講座を開催した。また、第49回秋季学術大会では、専門部会講座の「入門編」8講座、「専門編」7講座を開催した。

さらに、6つのe-learningコンテンツを作成して、学会の動画チャンネルに掲載した。

4. 研究奨励事業；公4

2021年度表彰は、表彰規程に基づき、2020年度の三賞、学術業績賞、研究奨励賞、国際貢献賞の選考・推薦を行った。

また、各支部において表彰を行った。

- ① 東北支部：東北支部賞1名、功労賞2名、学術奨励賞3名
- ② 関東支部：功労賞1名、技術奨励賞1名
- ③ 東京支部：功労賞1名、学術奨励賞1名、新人研究奨励賞9名、Research Award1名
- ④ 中部支部：奨励賞7名
- ⑤ 近畿支部：功労賞2名
- ⑥ 中国・四国支部：功労賞1名、奨励賞1名
- ⑦ 九州支部：支部研究奨励賞2名、支部論文化奨励賞4名、学生優秀賞5名

5. 連携交流事業；公5

1) 国内

(1) 関連学協会への委員の派遣ならびに共催・協賛・後援含めて関連学協会への協力を行った。

- ① 標準・規格委員会活動として、JIRA、日本IHE協会、DICOM委員会と協力し5つのJIS原案作成分科会班を追加し、JISの制定・改正作業に参画した。
- ② 一般社団法人日本IHE協会に、役員2名を派遣した。
- ③ 一般社団法人医療情報基準化協議会HELICS協議会に役員3名を派遣した。
- ④ 医用画像情報専門技師共同認定機構に、役員1名を派遣した。
- ⑤ 日本核医学専門技師認定機構に、役員3名を派遣した。
- ⑥ 日本乳がん検診精度管理中央機構に、役員2名を派遣した。
- ⑦ 放射線治療品質管理機構に、役員2名を派遣した。
- ⑧ 日本X線CT専門技師認定機構に、役員1名を派遣した。
- ⑨ 日本放射線腫瘍学会「MR画像誘導即時適応放射線治療ガイドライン」作成に、委員1名を派遣した。
- ⑩ 日本画像医療システム工業会IEC規格審議委員会に、委員2名を派遣した。

(2) JRC理事会に役員を6名派遣し、学術大会開催企画に積極的に参画した。

(3) 一般社団法人日本放射線看護学会に役員4名を連携会員登録し、2021年度日本放射線看護学会学術集会(青森：Web開催)で合同のシンポジウムを開催JSRTからシンポジストを派遣した。また、両会合同で環境省の科研費を申請し共同研究を行う準備に着手した。

(4) 公益社団法人日本診療放射線技師会と2回の懇談会を行った。また、JART-JSRT合同シンポジウム「生殖腺(性腺)防護について考える」両団体のそれぞれの大会で、同じ内容でシンポジウムを開催した。

2) 海外

世界的なコロナ禍の影響により、海外への会員派遣は中止した。

本会および交流のある学会は Web による学術大会を開催しオンラインでの学術交流を行った。

中華医学会影像技術学会 (CSIT) 第 29 回総会学術大会に代表理事のビデオレターを送付した。

大韓放射線科学会 (KSRS) 春季学術大会に代表理事のビデオレターを送付した。

19th SEACOMP, 13th TMPS, 14th ACOMP にオンライン参加して、JSRT Mini-Symposium の進行を行った。